

◇経済地理学会総会および第 63 回大会のお知らせ【第 2 報】◇

2016 年度経済地理学会総会および第 63 回大会は下記の要領で開催されます。

◆日 程：2016 年 5 月 27（金） 常任幹事会

28（土） 評議会， 共通論題シンポジウム， 懇親会

29（日） フロンティアセッション， 総会， ラウンドテーブル

30（月） エクスカーション

◆会 場：熊本大学黒髪北キャンパス文法学部本館（アクセス方法は以下の Web サイトをご覧ください）

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/access>

◆共通論題シンポジウム

5 月 28 日（土） 13:00～17:30

テーマ：地方創生と経済地理学

昨今，地域経済を取り巻く種々の動きが語られるなかで「地方創生」という用語が主役の座を占めつつある。大きな転機として，2014 年 9 月の「まち・ひと・しごと創生本部」の発足がある。アベノミクスの第 3 の矢の中心施策として位置づけられたといえよう。

実際，21 世紀になって日本が人口減少期に入ると，地域経済の将来に対する不安は急速に焦点を結んできた。国の方針決定と呼応するように，ここ 2 年ほどの間にインパクトの強い政策提言に関する書物が発表されている。これらの書物は今日地域経済が抱える問題をそれぞれの視点から鋭く浮かび上がらせ，その対処法を提示している。

増田他（2014）は人口減少問題を地域問題の大前提として設定した。彼らの「地方消滅」という情報発信は政府の動きと連動しており，提言のもたらした衝撃は地方創生政策の地ならしをしたといえるだろう。

藻谷他（2013）は，「里山」というキーワードで地域資源に根差した新たな地域経済発展のオルタナティブを示した。彼らの提言は大きな意味で「内発的発展論」のリバイバルであるといえるが，財政支出の限界と消滅の危機感の強まりを背景として，紹介される地域再生の事例は，以前のものよりはるかに強い迫力を伴っている。

富山（2014）は，日本における「地域的分業の変容」を基軸にローカル経済の問題を論じている。「グローバル化のパラドックス」として近年の変化を明瞭に描き出しているが，半面単純化のあまり「国民経済」の視点を欠いている。

さて，経済地理学は 21 世紀の日本の地域経済の変化に対し，社会科学として，実証科学として，そして政策科学としてどのような指針を示すことができるであろうか。本大会では，2014 年地域大会での新たな地域作りの論点や，2015 年地域大会の地方都市のダウンサイジングの議論も踏まえつつ，幅広い視座からの地方創生論に向けて，会員諸氏の知的好奇心を刺激するような議論の場を提供したいと考えている。

文献：

増田寛也編著『地方消滅－東京一極集中が招く人口急減－』中公新書，2014年。

藻谷浩介他『里山資本主義－日本経済は「安心の原理」で動く－』角川 one テーマ 21，2013年。

富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか－GとLの経済成長戦略－』PHP新書，2014年。

報告者：中澤高志（明治大学），城戸宏史（北九州市立大学），作野広和（島根大学）

詳細は決まり次第更新する。

◆フロンティアセッション

5月29日（日）9:30～12:00

調整中。

◆総会

5月29日（日）13:00～14:00

◆ラウンドテーブル

5月29日（日）14:30～17:00

テーマ：大学と地方創生

オーガナイザー：宮町良広（大分大学），柳井雅人（北九州市立大学）

他調整中。

◆懇親会

5月28日（土）18:00～20:00

くすの木会館レセプションルーム（黒髪北キャンパス内）で開催予定。

参加費は一般5,000円，学生・院生3,000円。当日受付。

◆エクスカージョン

5月30日（月）9:40～16:00を予定（新水俣駅現地集合，現地解散）

テーマ：「水俣の環境再生と地方創生」

水俣市内を貸し切りバスで巡る。訪問先として，永年水俣病患者の支援活動等を行っている一般財団法人水俣病センター相思社が運営している水俣病歴史考証館，茂道海岸・漁港（水俣病患者激発地）散策，水俣エコタウン見学などを予定している。また水俣病の原因企業であるチッソ（現JNC株式会社）の水俣工場の見学交渉中である。

詳細な行程や申込方法等は決まり次第更新する。

◆問い合わせ先

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1 北九州市立大学経済学部

田村大樹（北九州市立大学経済学部）

TEL. 093-964-4343

e-mail: t-daiju@kitakyu-u.ac.jp

◆実行委員会

実行委員長：高木彰彦（九州大学）

ハード部門：鹿嶋洋（委員長，熊本大学），伊東維年（熊本学園大学），鈴木康夫（東海大学），高野誠二（東海大学），外川健一（熊本大学），中野元（熊本学園大学），能津和雄（東海大学），山本耕三（熊本大学）

ソフト部門：田村大樹（委員長，北九州市立大学），荒木一視（山口大学），川瀬正樹（広島修道大学），杉浦勝章（下関市立大学），寺谷亮司（愛媛大学），友澤和夫（広島大学），根岸裕孝（宮崎大学）